

「自民党が舛添氏を推薦するのはおかしいと思いますが？」

●山田健二さんからの質問

自民党が舛添氏を推薦するのはおかしいと思います。彼は自民党が下野した時に砂をかけて出ていき、除名になった方です。自民党は安倍総理と考え近く、東京強靱化を掲げている田母神氏を推薦するべきではないでしょうか。舛添氏推薦は筋が通りません。

●西田昌司の答え

今回の都知事選は、細川元総理等の名前の売れたタレント的な人達が立候補して話題になっていますが、都知事としてふさわしい人物は有名である必要はありません。プロパーな都副知事や都職員等の、都政をよくわかっている人の方が本来は望ましいのですが、東京は有り余る財力があり、地方のように行政に対する切迫した要望もなく、タレントの人気投票的な選挙区になってしまっていることに私は危機感を抱きます。マスコミは細川元総理を持ち上げていますが、そこには何としてでも安倍叩きをしたい、という意図が感じられます。

安倍総理が目指しているのは「戦後レジームからの脱却」です。「戦後レジーム」とは「戦後の占領体制」であり、サンフランシスコ体制とも言えるかもしれません。私も京都府議時代から安倍総理と同じ主張をしてきました(私の場合は「戦後体制からの脱却」と表現していましたが)。戦後、東京裁判——勝者が敗者を一方的に裁いた、国際法にも違反する非法・不法の復讐のプロパガンダにすぎませんが——で、日本は戦争犯罪を犯したと断罪されました。東京裁判の不正を直視せず、戦勝国に押し付けられた東京裁判史観を自ら受け入れたがる日本人があまりにも多すぎますが、安倍総理は、この歴史観を乗り越えないと日本は真の独立を果たせない、と考えています。

去年の暮れに安倍総理は靖国参拝をしましたが、マスコミは大バッシングしました。東京裁判史観によると、日本は侵略戦争を起こして世界の平和をかく乱したのであり、その戦争で亡くなった人々、とりわけ A 級戦犯が祀られている靖国神社に総理が参拝するのはとんでもない、ということになりますし、これは中韓の主張でもあります。「アメリカに失望された」、「中韓相手に要らぬ緊張をもたらした」などとマスコミは連日のようにまくし立てましたが、アベノミクスによる景気回復の期待からか、支持率は下がりませんでした。

今回、小泉元総理が細川元総理を応援しており、かつてのマスコミの寵児であった二人の元総理がタッグを組んで、自民推薦の舛添氏を負かすのではないかと、といったことがささやかれています。第一次安倍内閣の時とは異なり、マスコミが叩いても国民は惑わされなくなっており、安倍叩きをしたいマスコミはやきもきしていますが、安倍総理のかつての師匠であった小泉元総理が安倍叩きをする、ということで、マスコミとしては細川元総理を応援したく、異様な盛り上がりとなっています。しかし、細川元総理が都知事など、私に言わせれば笑止千万な話です。

二人の元総理は反原発・脱原発というワンフレーズでこの選挙を戦おうとしています。民主党政権時代に菅元総理も脱原発を主張し、いきなり浜岡原発を停止させました。その後、次々と原発を停めた結果、石油・LNG・石炭等を外国から買う為に毎年 3.5 兆円もの国富が海外に流出し、貿易赤字になっています。このまま原発を再稼働させなければ、代替エネルギーが開発されない限り今の状態はずっと続きますが、代替エネルギーの目処は全く立っていません。

現在、原子力災害の賠償金は東電に代わって政府が払っていますが、いずれは東電に返させなければなりません。しかし、燃料費の急増が原因の赤字経営に陥ってしまっただけでは賠償もできませんので、賠償させる為にも原発の再稼働が必要です。先日、原子力規制委員会が福島第 1 原発事故を分析した調査報告書をまとめましたが、地震ではなく「津波が主因で全電源を喪失」し

て事故に至ったと報告しています。福島原発よりも強い地震に見舞われた女川原発は、高台にあったので津波の被害がなく、何の問題もありませんでした。もちろん、再稼働するには安全性が確保されなければなりません。津波対策をしっかりと行い、活断層の調査等もせねばなりません。安全対策ができた原発から順番に再稼働させてエネルギーの安定供給をしないと、逆に国民の命を奪う結果となってしまいます。

現在、日本には 17000 トンの使用済み核燃料がありますが、半減期の異様に長いプルトニウムが含まれています。そのまま最終処分すると安全性の面で極端に劣ってしまいますが、使用済み核燃料を再処理してプルトニウム等を分離すると体積がおよそ三分の一になり、ガラス固化して地下 300 メートルよりも深い地層に安全に処分できます。国際公約上、日本は余剰プルトニウムを持ってはいけませんので、分離したプルトニウムを含む酸化物は原発の燃料として使用しないとプルトニウムがどんどん貯まってしまいます。このことから、原発は動かし続けなければなりません。

東京は日本で一番電力を消費する街です。超高層ビルが立ち並んでいますが、その中にあるエレベーターは言わば上下に動く電車であり、電力がなければ動きません。東京に電力供給する発電所のほとんどは東京にはなく、福島や新潟の原発で作った電力により豊かさを謳歌していたのです。原発を誘致した自治体が「もう交付金は要らないから原発をなくしたい。これからは風力発電等で自給自足の生活をするんだ」と言うのであれば、まだ理解できます。しかし、電力を消費する側の東京都の知事選で脱原発を争点にするなど、愚の骨頂と言わざるをえません。

細川元総理は政治改革を旗印に連立政権を作りましたが、中身はありませんでした。あの当時から、これからは福祉にお金がかかると言われていましたが、細川元総理は唐突に深夜の記者会見で、消費税を福祉目的税に改めて税率を 3 % から 7 % に引き上げる国民福祉税構想を発表しました。しかし、与党内からも反対の声が沸き上がり、翌日には白紙撤回に追い込まれました。

今回の都知事選は、猪瀬元都知事が徳洲会から 5000 万円の説明のつかないお金を借り入れたことが発端です。細川元総理も佐川急便から 1 億円の説明のつかないお金を借り入れて辞任しましたが、真相は明らかになっていません。もしも細川元総理が都知事になれば、20 年前のこととはいえ、東京都議会で百条委員会を開いて真相を究明しなければなりません。猪瀬元都知事の倍の金額を借り入れて総理を辞任した人が、次は都知事になるというのはあり得ない話ですし、本来、マスコミはこのような矛盾点を国民に説明せねばなりません。一方の小泉元総理にしましても、郵政民営化関連法案が参議院で否決されたにもかかわらず、衆議院を解散してしまった方です。私は、二人の元総理はともに妄想癖のある方々だと思っています。

最後に、「自民党は田母神氏を推薦すべきでは」という今回の質問に対しては、御批判はあろうかとは思いますが、私は舛添氏で仕方がないのだろうと思っています。

反訳：ウッキーさん

Copyright : 週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>